

2008年4月14日@外務省

「国際協力に関する有識者会議」第7回会合

「NGO経験から考える国際協力」発表(素案)

熊岡路矢

当日14日の発表は、パワーポイントを使用する予定です。内容も一部変更される可能性がありますので、ご了解下さい。

1) 紛争地域等でのNGO活動／国際協力から見てきたもの。

70年代後半から今、東南アジア／東アフリカでの活動経験をもとに。国交のない国、あるいは政府間関係が弱い国・地域での活動。旧インドシナ三国、エチオピア、ソマリア等。

問題意識:

- ① 難民救援活動と平行して、難民を出している側での緊急人道援助-復興協力をを行い、和平協定以降の地域開発協力活動-人権・「人間の安全保障」協力を繋げた。「シームレス」
- ② 「非政府」であることの意味。可能な限りでの、人道性-中立性-公正性-独立性を軸に、「ひとびと」を中心とした協力。「人間の安全保障」。
- ③ 復興・開発の段階: A. 小農支援の重要性。コミュニティ・グループ・個人ベースの発展への努力。環境重視、多角複合農林業(Agro-Forestry)の重要性。B. 経済成長型モデルの追求だけでは、むしろ極端な貧困と極端な貧富の差が増すという逆説的な現実。人権重視の社会・経済発展の重要性。「よい統治」(人権、民主化を尊重する)。

2) 「現在」のパレスチナ紛争、「イラク戦争」の事例: (80年代前半レバノンでのパレスチナ難民支援、1991年湾岸戦争後のイラク国内での人道・復興協力から)

問題意識:

- ① パレスチナでの人道援助+平和提言 / (2002年)イラクでの人道援助・交流をもとに、戦争ストップ(平和提言)に結びつけようとした活動。 / 2004年4月まで、イラク国内での医療支援を行った事例から 現場での人道援助と平和提言を結びつける試みを説明。
- ② 「イラク戦争」開戦前の時点で、政府、政府系援助機関が、「平和構築」「難民・人道支援」等の用語で、戦争そのものへの批判なく「復興協力」に流れてしまった。
- ③ 西アジア(中東および、世界)の根本課題(の一つ)が、パレスチナ紛争とその解決である。

3) 世界のNGO概観。日本のNGO概観。

問題意識:

- ① 日本のNGO・CSOの課題は、政策批判・政策提言能力を高めることの重要性。
NGOが、調査・研究・分析・提言能力を高めること。 / 社会(政府、議会・議員、企業、学界、報道界、研究所、市民など)とNGOの連携。 ② さらに、計画立案・実施・評価能力向上をふくめ(政府・政府系機関をふくむ)日本社会全体の課題である。

4) その他。新たな情勢。新しい「援助国」の台頭。巨大な民間財団の活動。

問題意識: 援助協調の課題。「パリ宣言 援助効果向上」に向けて。アクラ会議(08年)